

(★前ページより)

ただこの3年間コロナで、外から豆は撒けない寂しい節分になりましたが、それでも300名近い年男が来られてますから、本当にありがたいと思います。賑やかな頃は、年男が600名ぐらい来てくれましたが、今ではだんだん少なくなり、300名ぐらいで、少し盛り返さなければと思ってます。

また七五三も以前は、一日で多い時で600名ぐらい、計4~5000名ぐらい来てましたが、子供が少なくなったり、どこでも七五三はやってますから昔と違ってかなり静かになりました。

初不動は賑やかですが、毎月28日の不動様の日は少なくなりました。土日に、という感じで社会の構造が変わってきました。今の時代、団体でどこかへ行くという感じではございませんから、家族で行動を共にするという形態になっていますから寂しいものです。

高幡不動尊も若い人は増えて来ましたが、昔は独りであっちに行ったり、こっちに行ったりして、何でもこなさなければつとまらない感じでしたが、今は仕事が細分化されています。何となく寂しさを感じます。

お不動様とはどういうものか？ 仏様は三つありまして、自性輪身、正方輪身、教令輪身。自性輪身というのは悟りの境地を体現した姿要するに大日如来とか阿弥陀如来とか如来様の名前がついてます。正方輪身というのは悟りの境地そのものをわかりやすく説く観音千手菩薩とか観音菩薩とか菩薩様です。教令輪身というのはその下の法令を拡げるお不動様。仏法に畏敬していない僧を縄で捕まえて引っ張り右手の剣で心を破るという役割がお不動様です。

今は、いろいろな宗教がありますが、関東ではお不動様、関西では聖天様が有名です。関東では成田、高幡、大山阿夫利神社の大山不動が関東三大不動と言われてますが、今はあちらこちらに三大不動があります。

関西では、聖天様商売繁盛のお寺でこちらでは川崎の西新井薬師大師とか要するに、弘法大師を祀ってるお寺です。京都の智積院という総本山ですが大本山は3つありまして、一つが成田山新勝寺、二つ目が川崎大師、三つめが高尾山薬王院、真言宗智山派大本山です。その下に別格本山というのがありまして、一つが高幡、名古屋の大須観音、全部で五つです。前は六つでしたが一つ別格本山をおりました。

東日本を中心に3000寺院ありますが、中国地方には智山派のお寺はございません。九州や四国に少しあるぐらいです。東日本を中心に埼玉、千葉に多いという感じです。

私の頃は、お坊さんになってと言われまして、やらざるを得ないことでしたが、今はもうお坊さんになってとは言いません。田舎のお寺だと坊さんをしながら、どこかで働くという形で役場や学校の先生をしてみました。今は仕事をして、お坊さんをする、あの人はなぜ休むのですか？といわれるぐらいの世の中になりました。

大きなお寺ならともかく、小さいお寺で二足の草鞋をはいてやるのは少なくなり、なり手がいません。そのせいか女性の方で尼さんが増えてきました。そのうち高幡不動尊も尼さんが来るような気もしますが、来たいといえば断るわけにはいきません。ただ部屋やトイレなど改修しなくてはいけないので難しい時代です。

ストレスがなくいつまでも笑顔でニコニコとすることが一番大事で、相手に求めるのではなく自分からそのように過ごすことが大事なことです。そうすれば、相手もそのうち笑顔になりニコニコするようになり、人生が楽しくなる。ストレスを溜めずに、いやなことがいっぱいある人生かもしれないけれども、人と会った時はいつもにこやかにしていることが、自分が元気になりストレスが溜まらなくなる秘訣かと思います。

女性の方は長生きです。 男の方は早いと82, 3歳で煙になります。 女性の方は88歳ぐらいまでは頑張りますから… ましてや旦那さんが早く亡くなった方は、悲しんでいるのは四十九日まで。 その後は手のかかるものが、いなくなって人生を謳歌しています。

男親の場合は、女親が先に亡くなると最初子供は心配して家に来て、いろいろ手伝ってくれるのですが、そのうちわがママを言うと、誰も寄って来ませんから…。

寂しく1人で暮らしの男親が先に亡くなると、お母さんの所へ毎日のごとく来て喧嘩することもなく楽しい人生を送るみたいです。 そういう意味でなるべく奥さんを大事に、奥さんに早く逝かれない様に頑張ることが、素晴らしい人生を送るのではないかと思います。 寂しい余生を送ることがないように奥さんより先に行くことを勧めます。

この建物と事務所が4, 50年以上、経ってますが、日野市の方から避難場所に指定されています。 このたび直すことになり、基本設計が終わりました。

来年節分すぎましたら移動し、壊すのは再来年の節分過ぎを予定してます。

諸事情で延びることもありますが、そのときはご容赦のほど、よろしく願いいたします。

